

水分安定性・新規性・和紙の抗菌性を有する

福井県越前市大滝地区(旧今立町)は、1500年前から和紙の製造が盛んで「越前和紙の里」と呼ばれています。

この地区に本社を構える石川製紙(株)は、

平成18年度成果展開事業で、

「水分安定性・抗菌性を有する越前和紙」を開発しました。



抄紙機

紙は基本的には繊維の絡みで構成されており、繊維間の隙間に水分を吸収したり放散したりします。特に和紙は長繊維のため繊維間の隙間が大きく、より多くの水分を吸収し放散します。



試作紙

このことは昔ながらの使用法・生活様式では、最大の利点でしたが、現在では水分の吸水・放散によって繊維の伸縮がおきることや、水分を吸収しやすいことで様々なクレームが発生しています。

このため、従来の和紙に**原子力機構の特許「高吸水性ハイドロゲル」**を活用することにより、水分を抑制し欠点を克服した「水分が安定した新規和紙」の開発を行いました。

その後、(財)若狭湾エネルギー研究開発センターが管理法人となり、地域資源活用型研究開発事業にて、新たな市場開拓に向け、商品開発を実施しました。



金箔用和紙

共同特許申請

平成19年4月19日

「ハイドロゲル塗工和紙およびその製造装置」

石川製紙株式会社
福井県越前市

平成18年度 成果展開事業



原子力機構